

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： Computational Perception Design:データ駆動手法による知覚体験設計

2. 個人研究者名

吉田 成朗（東京大学先端科学技術研究センター 特任講師）

3. 事後評価結果

本研究では、機械学習のようなデータ駆動型の情報処理手法を用いて、人間の知覚現象と感覚刺激の対応関係を計算機で扱える形にモデル化することで、目的とする知覚現象をインタフェース上で表現可能にする方法論を確立することにあつた。

結果として、「データ駆動手法による知覚体験設計」という新しい考え方を提示し、様々な具体的な事例でその有効性を示した。今後のインタフェース/インタラクションデザインに指針を与える成果を示している点が評価できる。ただし、それぞれの知覚特性を個別に解明するのではなく、それらの特性の関連も含めた総合的な知見があるとよいと思われる。

今後の活動として、データ駆動による知覚体験インタフェースの領域を、今後、より体系的にする形で研究を進めていけることを期待したい。